

主要産地における平成28年産水稻の生育状況等について 第11報 (8月4日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (平成28年6月5日)

道府県	区分	生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋)		同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等 (抜粋)
		平年に対する遅速等		
北海道	(全道)	生育は平年並 (遅2)。草丈は59.1cmで平年より短く、葉数は10.2枚で平年並、茎数は644本/m <sup>2</sup> で平年並。 (北海道農政部 7月15日現在)		・8月のいもち病 (葉いもち・穂いもち) の発生量は平年と予報。フタオビコヤガの発生量は平年並、フタオビコヤガの発生量はやや少ないと予報。 (北海道病害虫防除所、道総研中央農業試験場予察診断グループ 7月26日公表)
(生育)	(空知)	生育は平年並に進んでいる。草丈は61.2cmでやや短い、葉数は10.3枚で平年並、茎数は649本で平年並。 (空知総合振興局 7月15日現在)		
(石狩)	生育は平年並に進んでいる。草丈は54.4cmで短く、葉数は9.8枚で平年並、茎数は667本で平年並。 (石狩総合振興局 7月15日現在)			
(後志)	生育は平年より遅いが回復しつつある。草丈は56.2cmで平年よりやや短く、葉数は9.9枚で平年並、茎数は605本で平年よりやや少ない。 (後志総合振興局 7月15日現在)			
(胆振)	生育は平年並 (遅2日)。草丈は50.8cmで短い、葉数は9.9枚で平年並、茎数は566.2本で平年並。 (胆振総合振興局 7月15日現在)			
(日高)	生育は平年並み (遅2日)。草丈は55.6cmで平年より短く、葉数は9.9枚で平年並、茎数は555.1本で平年より少ない。 (日高総合振興局 7月15日現在)			
(渡島)	生育は概ね平年並。草丈は55.2cmで平年並、葉数は9.6枚で平年並、茎数は709本でやや少ない。 (渡島総合振興局 7月15日現在)			
(樺山)	生育は回復しつつある (遅4日)。草丈は52.1cmで短い、葉数は9.8枚でやや少ない、茎数は627.7本でやや少ない。 (樺山振興局 7月15日現在)			
(上川)	生育は平年並に進んでいる (遅4日)。草丈は60.0cmで短い、葉数は10.4枚で平年並、茎数は655本で平年並。 (上川総合振興局 7月15日現在)			
(留萌)	生育は順調に進んでいる。草丈は59.5cmでやや短い、葉数は10.6枚で平年並、茎数は602本でやや多い。 (留萌振興局 7月15日現在)			
(オホーツク)	生育は平年並 (遅2日)。草丈は60.7cmで平年より短い、葉数は8.3枚りやや少なく、茎数は569.5本で少ない。 (オホーツク総合振興局 7月15日現在)			
青森	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月31日現在の水稻出穂状況は、県全体で3%で、平年に比べて2ポイント高かった。 (青森県 8月2日付)</li> <li>7月20日現在の「つがるロマン」の生育状況は、草丈が59.3cmで平年より11.1cm短く、株当たり茎数は28.3本で平年より0.9本少なく、葉数は11.1葉で平年より0.7葉少なかった。また、「青天の霹靂」の生育状況は、草丈が68.6cmで前年より2.3cm短く、株当たり茎数は25.4本で前年より2.9本少なく、葉数は10.2葉で前年より0.6葉少なかった。幼穂形成期の到達日は、「つがるロマン」が7月13日で平年より1日遅く、「青天の霹靂」は7月10日、前年より1日遅かった。</li> <li>7月20日現在の十和田の「まっしぐら」の生育状況は、草丈が68.4cmで平年より6.0cm短く、株当たり茎数は21.5本で平年より1.6本少なく、葉数は11.5葉で平年並みであった。幼穂形成期の到達日は7月4日で、平年より6日早かった。 (青森県 7月20日付)</li> <li>(黒石) 7月20日現在の「つがるロマン」の生育状況は、草丈が59.3cmで平年より11.1cm短く、株当たり茎数は28.3本で平年より0.9本少なく、葉数は11.1葉で平年より0.7葉少なかった。「青天の霹靂」の生育状況は、草丈が68.6cmで前年より2.3cm短く、株当たり茎数は25.4本で前年より2.9本少なく、葉数は10.2葉で前年より0.6葉少ない。</li> <li>(十和田) 7月20日現在の「まっしぐら」の生育状況は、草丈は68.4cmで平年より6.0cm短く、株当たり茎数は21.5本で平年より1.6本少なく、葉数は11.5葉で平年並。 (青森県産産技術センター-農林総合研究所 7月21日付)</li> </ul>		・8月の穂いちはやや少ない、紋枯病は平年並と予報。斑点米カメムシ類はやや多い、コバネイナゴは平年並、ウツカ類、フタオビコヤガ、コブメイガはやや少ないと予報。 (青森県病害虫防除所 7月28日公表)
岩手	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内の水稻は、出穂してきた圃場が多くみられる。高温による受粉障害および熟後落実による玄米品質の低下を避けるため、適切に水管理を行うよう注意。 (岩手県 8月3日付)</li> <li>県全体平均の幼穂形成期は、7月13日(平年並+2日)と平年よりやや遅く、出穂期は8月6日頃と平年より3日遅いと見込まれる。7月18日時点の出穂率は、「いわてっこ」は8月8日、「あきたこまち」と「緑河のしずく」は8月7日、「とんぼひしやり」は8月6日、「ひとめぼれ」は8月5日。 (岩手県 7月28日付)</li> <li>7月26日現在、農業研究センター(北上)では、草丈及び葉数は「ひとめぼれ」、「あきたこまち」とも、平年を下回っている。茎数は「ひとめぼれ」、「あきたこまち」とも平年を上回っている。葉色 (SPAD値) は、「ひとめぼれ」は平年を上回っているが、「あきたこまち」は平年を下回っている。東北農業研究所(軽米)の「いわてっこ」の草丈、葉数、葉色 (SPAD値) とも平年を下回っている。減数分裂期は、7月23日平年より1日遅く達した。 (岩手県農業研究センター 7月27日付)</li> </ul>		・8月のいもち病 (穂いもち)、紋枯病の発生量はやや多い、こま葉枯病の発生量は平年並と予報。斑点米カメムシ類の発生量はやや多い、フタオビコヤガの発生量はやや少ない、ウツカ類、フタオビコヤガの発生量は少ないと予報。 (岩手県病害虫防除所 7月27日公表)
宮城	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月1日現在、25.176ha(水稻作付見込面積の38.9%)で出穂が確認され、出穂始期は7月29日となり、平年より4日程度早まっている。 (宮城県 8月2日付)</li> <li>(美里) 8月1日現在、県全体の水稻作付見込面積の約40%で出穂が確認され、美里管内全体の出穂期は、8月2日頃(平年値-8月3日)となった。直轄栽培生産調査区では、減数分裂期に入っており、出穂期は8月12日頃と見込まれる。 (宮城県農業改良普及センター 8月4日付)</li> <li>(仙台) 遼水直轄地では7月21日に幼穂形成期を迎えた。(仙台市調査は、平年と比べ2日遅い)。出穂期は8月14日前後と予想される。宮田直轄地では7月16日に幼穂形成期を迎えた(大郷町・仙台市調査は、平年と同じ)。出穂期は8月10日前後と予想される。(仙台農業改良普及センター 7月28日付)</li> <li>7月11日現在、管内のほとんどの移植水稻が、7月18日～25日の間に減数分裂期を迎える見込み。地帯区分別のひとめぼれとササニシキの出穂予想は、北部平坦地が7月30日～8月6日、南部平坦地が7月28日～8月5日、仙台湾岸が7月29日～8月7日、西部丘陵地が8月3日～12日、山間高冷地が8月9日～19日。(仙台農業改良普及センター 7月14日付)</li> <li>(登米) 平年に比べ草丈は平年並 (平年比93～102%)、葉数は平年並 (平年比94～116%)、葉色は平年並 (平年並-0.7～-0.3)、葉は濃い (平年並-3.5～+2.3)、幼穂長 6.4mm～34.5mm (平年比10本平均)、中身品種の出穂期は7月28日(出穂始期)～8月5日(穂揃期)頃となる見込み。(登米農業改良普及センター 7月22日付)</li> <li>(石巻) 7月20日現在、出穂期は単まり管内の出穂期は8月1日前後の見込み。葉数は、平年並～やや多くなり (平年比105%～113%)、葉色 (SPAD値) は、ひとめぼれ(広瀬)でやや低くなり概ね平年並。幼穂長は16～122mmで、全体の傾向として出穂の遅い圃場は多くみられるが、平年より早い圃場もみられる。8月上旬以降の圃場ではすでに減数分裂始期(幼穂長20mm)に達し、ひとめぼれほ場では減数分裂期(葉長間長1mm)になっていると見られる。 (石巻農業改良普及センター 7月22日付)</li> <li>(本吉) 7月20日の調査の結果、生育は前回同様ほぼ平年並の進捗となっている。草丈・葉数・葉色はほぼ平年並、葉数は平年より少なくなっている。前三陵町の生育調査は(ササニシキ)では、草丈・葉数・葉色ともにほぼ平年並。生育調査区の幼穂長は13～23mmで、出穂18～16日前、出穂期は8月5日～8月7日と推定されほぼ平年並となる見込み。 (7月20日の生育調査結果から、三陸沖地域の出穂期間は8月6日～15日と予測されている。 (本吉農業改良普及センター 7月21日付)</li> <li>(栗原) 7月20日現在、生育調査ほ(ひとめぼれ)の草丈は平年並 (平年比97%)、葉数は平年並 (平年比102%)、葉色はやや濃く (平年比104%)、葉数は平年並 (平年並+0.2枚) で、幼穂長等から生育は平年並～1日程度遅んでいる。5月6日移植の調査ほでは、減数分裂期を過ぎ、5月18日移植の調査ほではまもなく減数分裂期を迎える。出穂期は8月2～3日頃と見込まれる。「つや姫」は幼穂形成期になり、出穂期は8月10日頃となる見込み。 (栗原農業改良普及センター 7月21日付)</li> <li>(大崎) 7月20日現在、草丈は「ほぼ平年並～やや短い」。葉数は、北部平坦ササニシキ及び西部丘陵まなむすめ、山間高冷地まなむすめは、平年を大きく上回っている。北部平坦及び西部丘陵のひとめぼれは、平年を下回っている。葉色は「ほぼ平年並またはやや少ない傾向」が見られる。北部平坦のひとめぼれ及びササニシキは7月18日、西部丘陵のひとめぼれは7月19日、山間高冷地のまなむすめは7月20日に減数分裂始期に達したと見込まれる。今後の気温が平年並みで推移した場合、出穂期(県全体の平均)は8月3日頃(平年は8月5日)になる見込み。(大崎農業改良普及センター 7月21日付)</li> <li>(大河原) 7月20日現在、生育ステージは平年より早めに進み、平坦部では減数分裂期に入っている。平坦地域で田植の早かった「ひとめぼれ」や「まなむすめ」は7月末頃、山間部の「やましずく」は8月上旬の出穂が見込まれる。穂晩生の「つや姫」は幼穂形成に入っている。 (大河原農業改良普及センター 7月20日付)</li> <li>(亶理) 6月10日現在、葉数は前年並み、草丈は前年より高くなる傾向がみられる。乾田直轄地では、苗立ち率は良好で初期にしては葉数も多く、葉数も進んでおり、移植地と生育の差は10日程度となっている。湛水直轄地でも移植後の苗立ち率は高くなっている。(亶理農業改良普及センター 6月13日付)</li> </ul>		・8月上旬までの葉・穂いもち、紋枯病、稲こじ病の発生量は平年並と予報。斑点米カメムシ類(アサジカミカメ)の発生量はやや多い、イネオムシの発生量は少ないと予報。 (宮城県病害虫防除所 7月21日公表)
秋田	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(鹿角) 7月25日の定点調査では、草丈が68.4cm(平年比94%)で短く、葉数が555本/m<sup>2</sup>(平年比107%)で多く、葉数が11.9葉(平年-0.3葉)とやや少なかった。葉色はSPAD値で34.8(平年比93%)と淡くなった。(7月29日付)</li> <li>(山本) 7月25日現在の水稻定点調査ほ(管内9地点)における生育状況は、草丈67.8cm(平年比90%)、葉数504本/m<sup>2</sup>(平年比102%)、葉数12.2(同並+0.5)、葉色38.6(同比100%)となっている。(7月29日付)</li> <li>(秋田) 7月25日現在の定点調査ほ(あきたこまち・10地点平均)の草丈は74.1cm(平年比96%)で平年よりやや短く、葉数は10.9本(同90%)で平年並、葉色(葉緑素値)は36.8(同93%)で平年並となっている。また、葉数は12.5葉(平年並+0.5)で平年並となっている。田植開始の早晩により、ほ場間で生育の状況が異なっている。また、中干し期間中、定期的に降雨があったため、乾燥なほ場も見られる。(7月28日付)</li> <li>(由利) 7月25日の水稻定点調査結果(3品種・移植8か所平均)と巡回調査によると、草丈は72.5cmで平年並(平年比99%)、葉数は486本/m<sup>2</sup>でやや少なく(平年比93%)となった。定点調査と巡回調査によると、管内全体の出穂期は平年より1日早い8月4日頃になると見込まれる。(7月29日付)</li> <li>(仙北) 7月25日現在の「あきたこまち」の生育は、草丈は69.0cmでやや短く(平年比93%)、葉数は486本/m<sup>2</sup>で平年並(平年比103%)、葉色 (SPAD値) は38.0で平年並(平年比100%)であった。葉数は11.7葉で、葉数から見た生育はやや遅い(平年並-0.5)状況。(7月29日付)</li> <li>(雄勝) 7月25日のあきたこまちの生育状況(管内8か所平均)は草丈68.1cm(平年比92%)、葉数472本/m<sup>2</sup>(平年比96%)、葉数11.8枚(平年比-0.3)、葉色(平年比98%)となっている。生育は平年よりやや遅れているが、概ね順調。 (7月29日付)</li> <li>(北秋田) 7月15日現在のあきたこまちは、草丈60.7cm(平年比96%)、葉数522本/m<sup>2</sup>(平年比88%)、葉数11.2葉(平年並±0.0)。葉数から見た生育は平年並となっており、葉色は平年よりやや淡い状況。(7月22日付)</li> <li>(平鹿) 7月15日に行った水稻生育定点調査(あきたこまち1か所)の結果では、草丈が61.8cm(平年比97%)、葉数が498本/m<sup>2</sup>(平年比95%)、葉数が11.2葉(平年比+0.3葉)、葉色が42.7(平年比101%)となっている。 (7月15日付) (秋田県農林政策課)</li> </ul>		・7月末から向こう1か月で、斑点米カメムシの発生が「多い」と予想。(農林水産省 7月26日公表)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月の穂いもちの発生量は平年並。紋枯病は平年並、斑点米カメムシ類の発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量は平年並、アサジカミカメの発生量は平年並、アサジカミカメの発生量は平年並と予報。発生量はやや早く発生量はやや少ないと予報。フタオビコヤガの発生時期ははややく、発生量はやや少ないと予報。ニカメイガ、コブメイガ、アヲヨトウの発生量はやや少なく、ヒメトビウオの発生量はやや多く、トビイロコウ、ツマグロコバネイナゴの発生量は平年並と予報。 (秋田県病害虫防除所 7月29日公表)</li> </ul>		

	生育状況等	同左及び周辺事情に対する自治体公表資料等（抜粋）
山形	<p>・7月28日現在、幼穂の発育状況から見た出穂は、平坦部「はえぬき」では8月3日頃、「つや姫」では8月13日頃と見込まれる。 （オールやまがた米づくり日本一運動本部 7月28日付）</p> <p>・7月20日現在の「はえぬき」「つや姫」の生育は、平年と比べて、草丈、葉数、葉色は平年並で、葉数はやや少ない。まもなく出穂期を迎えるが、平年並からやや遅いと予想されている。（山形県農林水産部 7月26日付）</p> <p>（最上）7月20日現在、生育診断「はえぬき」の生育は、草丈が短く、葉数が多く、葉色がやや遅れ、葉色がやや濃く推移している。出穂期は平年並の見込み。依然として生育の圃間差が大きい。 （最上総合支庁農業技術普及課 7月22日付）</p> <p>（鶴岡田川）7月19日現在、水田農業試験場（鶴岡）の幼穂調査では、出穂期は中生晩の「ひとめぼれ」は8月4日、「はえぬき」は8月4日概ね平年並と見込まれている。晩生の「つや姫」、「コシヒカリ」は8月13日で、平年よりやや遅い予想。 （庄内総合支庁農業技術普及課 7月25日付）</p> <p>（北村山）6月30日現在の生育は、草丈は平年並より長く、葉数は平年並より多く、葉色は平年並より濃く、生育速度は平年並より遅く、葉数は平年並より1日早く、葉色は色ムラがみられ、やや濃いものが多い。 （北村山農業技術普及課 7月5日付）</p> <p>6月30日現在、つや姫の生育状況は、指標に対し草丈は短く、葉数は並～やや少、葉色は格差が大きく、生育速度は並。例年より、ばらつきが大きい。（北村山農業技術普及課 7月5日付）</p> <p>（東南村山）7月20日現在予想される出穂期は、はえぬきで8月5日頃（村山総合支庁農業技術普及課 7月26日付）</p> <p>7月11日現在、「つや姫」調査は6か所の草丈、葉数、葉色はほぼ指標並で、葉数はやや少ない状況。管内のつや姫の出穂は8月10日前後と予想（村山総合支庁農業技術普及課 7月12日付）</p> <p>（東南置賜）6月30日現在の生育は、草丈は平年並よりやや長く、葉数は平年並よりやや少なく、葉色は平年並みの状況。葉数の進みは平年並み～やや早い状況で、今後も気温が高く経過すると予想されているため、さらに生育が進み、出穂が早まる見込み。地域、品種、圃間間の生育のばらつきが大きい状況。（置賜地域本部実践班 7月5日付）</p> <p>6月30日現在、つや姫の生育状況は、指標と比べ、草丈は並みからやや長く、葉数は並みからやや少なく、葉色は並みからやや多く、葉色は並みからやや濃い状況。今後も気温が高く経過すると予想されているため、さらに生育が進み、出穂が早まる見込み。予想出穂期は8月10日（平年 8月12日）。</p> <p>（オールやまがた米づくり日本一運動置賜地域本部 7月5日付）</p> <p>（西村山）6月30日現在の生育は、草丈は平年並より長く、葉数は平年並より多く、葉色は平年並より濃く、生育速度は平年並より遅く、葉数は平年並より1日早く、葉色は色ムラがみられ、やや濃いものが多い。 （西村山総合支庁農業技術普及課 7月4日付）</p> <p>（酒田飽海）7月11日現在、生育診断はの生育は、草丈は平年並、葉数はやや少ないが目標葉数は概ね確保されている。 葉数はやや少なく、葉色は平年並～やや遅い状況（酒田農業技術普及課 7月13日付）</p> <p>7月11日現在の「つや姫」の生育は、草丈は平年並～長、葉数は平年並～少ない、葉数は平年並～やや遅い、葉色は平年並～濃い。出穂は8月11～13日の予想（酒田農業技術普及課 7月12日付）</p>	<p>・8月の穂いもちの発生量は平年並、紋枯病の発生量ははやや少ない、斑点米カメムシ類の発生量は平年並と予想。 （山形県病害虫防除所 7月27日公表）</p>
福島	<p>・7月5日現在の農業総合センターの生育調査では、調査場所で生育状況が異なっている。本部（郡山）では、草丈が平年並、葉数が平年並よりやや少なく、主稈葉数が平年より多くなっている。会津地域研究所（会津坂下）では、草丈と主稈葉数が平年並、葉数が平年より少なくなっている。浜地域研究所（相馬）では、草丈が平年より長く、葉数が平年並より多く、主稈葉数が平年よりやや少なくなっている。 （福島県農林水産部 7月8日付）</p>	<p>・いもち病（穂いもち）と、稲こじ病の発生量ははやや多い、紋枯病の発生量は平年並と予想。斑点米カメムシ類、イネツトムシの発生量ははやや多いと予想。 （福島県病害虫防除所 7月22日公表）</p> <p>・葉いもちの発生や穂いもちへの感染が懸念される （福島県病害虫防除所 7月22日公表）</p> <p>・7月中旬から向こう1か月で、斑点米カメムシの発生が多い予想 （農林水産省 7月12日公表）</p>
茨城	<p>（水戸市）7月29日現在、出穂期は5月2日移植の「あきたこまち」で平年並、「コシヒカリ」で1日早かった。 5月10日移植の「コシヒカリ」の出穂始期から予測される出穂期は、平年より3日遅い。 （茨城県農業総合センター農業研究所 8月3日付）</p> <p>（龍ヶ崎市）7月19日現在、4月27日移植の「あきたこまち」の出穂期は、平年より3日早い7月11日。幼穂の発育程度から予測される「コシヒカリ」の出穂期は、平年より2日早い7月22日。平年に比べ、商品種とも草丈はやや長く、葉数は少ない。葉色は「あきたこまち」で淡く、「コシヒカリ」で並。 （茨城県農業総合センター農業研究所 7月22日付）</p>	<p>・7月下旬現在、県内の斑点米カメムシ類主要種であるクモヘリカメムシの発生が多くなっている。特に、県東、鹿行および県南地域で発生が多い。（茨城県病害虫防除所 8月1日公表）</p> <p>・8月のいもち病（穂いもち）の発生量は平年並～やや少ないと予想。斑点米カメムシ類の発生量ははやや多いと予想。紋枯病の発生量は平年並と予想。稲こじ病の発生量は平年並と予想。 （茨城県病害虫防除所 7月29日公表）</p>
栃木	<p>・7月20日の調査結果、早稲栽培の出穂期は、平年より5～6日早まる見込み。普通稲栽培の生育は、概ね平年並。 早稲栽培（コシヒカリ）の全体の生育（16か所平均）は、草丈はやや長い（平年比103%）。葉数は少なく（87%）、葉色はやや淡い（-0.2）ため、生育診断値（葉色×葉数）は小さい（82%）。葉数は平年並、幼穂長は12.4cmで平年より5.5cm長い。幼穂長から予測すると、出穂期は、7月27日で平年（8月1日）より5日早い。 普通稲栽培（あさひの夢）の全体の生育は、草丈は59.5cmで平年比102%とやや高く、葉数は468本/m<sup>2</sup>で平年並。葉齢は10.5で平年より0.3多く、葉色は4.9で平年より0.1濃い。生育診断値（葉色×葉数）は2.259で平年比102%とやや大きい。 （栃木県農政部 7月25日付）</p> <p>・葉数が少なく、葉色が淡い生育となっている。鹿沼・日光ともに幼穂分化が確認された。5月上旬頃のコシヒカリでは、7月25日頃に出穂期をむかえたと予測。本年の出穂期は平年より3～4日早くなる予想（上野農業振興事務所 7月13日付）</p> <p>・河内管内の水稲の生育は、草丈が高く、葉令も進んでおり、出穂は平年より5日（昨年より2日）程度早まる見込み （河内農業振興事務所 7月14日付）</p>	<p>・7月末から向こう1か月で、紋枯病の発生が「多い」と予想 （農林水産省 7月26日公表）</p> <p>・7月下旬～8月下旬のいもち病の発生量ははやや多いと予想。斑点米カメムシ類の発生量ははやや多いと予想。 （栃木県農業環境指導センター 7月22日公表）</p>
埼玉	<p>・所内生育相（7月1日現在） 早期栽培（5月2日移植 コシヒカリ）は、葉位の進展が早く、移植40日後調査では葉数が平年を上回ったが、中干しが良好に実施できたため、その後の弱小茎の発生を抑えられた。移植60日後の調査では草丈、葉数とも概ね平年並で生育は順調。 また、6月末時点で幼穂長が1～2mm程度あり、出穂が5日程度早まる（出穂期の平均値：7月27日）と予想される。 早稲栽培（5月20日移植 彩のかがやき）は、草丈、葉数とも平年並みに推移している。葉位の進展も概ね平年並であり、生育は順調。 普通栽培（6月24日移植 キヌヒカリ）は、育苗期間が高温であったため、徒長した充実度が低い苗であったが、移植後の天候が良好であったため、活着は概ね良好。</p> <p>・県内全般（7月1日現在） 普通栽培の移植は、平年より早く作業が進み概ね終了した。早期栽培では移植時期が早いものほど好天に恵まれ、生育は進んでおり幼穂の分化はやや早まっている。中干しは概ね順調に行われた。 早稲栽培の生育は、センター内同様、草丈、葉数は概ね平年並みで、高温により幼穂の分化はやや早まっている。 普通栽培の生育は、植え痛みや高温による除草剤の被害も少なかったことから、活着が良好で初期生育も概ね順調である。</p> <p>・早期、早稲栽培は、葉色が早期に低下しやすく、出穂期は平年より数日早まると予想される。 普通栽培は、葉色が早期に低下しやすく、幼穂形成期もやや早まると予想される。 （埼玉県農業技術研究センター 7月1日現在）</p>	<p>・8月のいもち病（穂いもち）の発生量は多いと予想。紋枯病、もみ枯病、縮葉病の発生量は平年並と予想。 ヒメトビウンカ、イネツトムシ（第2世代幼虫）、イネアオムシ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類の発生量ははやや少ないと予想。 （埼玉県病害虫防除所 7月29日公表）</p> <p>・7月末から向こう1か月で、紋枯病の発生が「多い」と予想 （農林水産省 7月26日公表）</p>
千葉	<p>・4月20日頃に播付した「ふさおとめ」、「ふさこがね」、「コシヒカリ」の出穂期は、平年と比較して2日から3日程度早く、5月10日頃に播付した「コシヒカリ」の出穂期は平年並となり、成熟期は早いところで9月2日頃からと予測される。 また、5月1日頃に播付した「コシヒカリ」の出穂期は平年並となり、成熟期は早いところで9月2日頃からと予測される。 なお、7月下旬の低温の影響を受け、5月10日頃に播付したほ場では、出穂期がやや遅くなっている。 （千葉県農林水産部 7月29日付）</p>	<p>・7月中旬から向こう1か月で、紋枯病の発生が多い予想 （農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・向こう1か月間の病害虫の発生量は、いもち病（穂いもち）、紋枯病、こまめシメジリ類は平年並の予想。大型カメムシ類は多く、カスミカメムシ類は多く、ヒメトビウンカはやや多く、イネクワカメムシ、セジロウンカ、イネアオムシ、イネツトムシの発生量は平年並の予想。 （千葉県農林総合研究センター 7月7日公表）</p>

	生育状況等	同志及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
新潟	<p>・8月1日現在、県平均の出穂期は、こしいぶきで昨年より4日早い7月26日。また、コシヒカリでは、昨年より3日早い8月4日頃の見込み。コシヒカリの生育は、指標値に比べて、草丈は「長い」、莖数は「やや多」、葉色は「並み」の状況。  <u>（新潟県農林水産部 8月2日付）</u></p> <p>（岩 船）8月1日現在の生育は、指標値に比べて草丈は並～やや長、莖数は並（一部やや多）、葉数は並、葉色は並、調査ほ場（6地点）の予想出穂期は8月7日～13日、一部のコシヒカリで走り穂が見え始めている。  <u>（村上農業普及指導センター 8月1日現在）</u></p> <p>（新発田）8月1日現在、草丈は92cm（指標値108%）でやや長く、莖数は364本/m<sup>2</sup>（同比98%）で並、葉数は13.1葉（指標値+0.3葉）で並、葉色は葉緑素計32（同差-1.4）でやや濃い。指標値に比べ、草丈がやや長めの稲家となっている。また、葉色がやや濃い。コシヒカリの出穂期は、止葉の葉耳間調査から昨年並～1日早い予想（8月10日頃移穂で8月8～9日）。（新潟県農業普及指導センター 8月1日付）</p> <p>（新潟）8月1日現在、コシヒカリの草丈はやや長く、莖数はやや多く、葉数は並、葉色は並、一部ほ場で、葉色の淡いところが見られる。（新潟県農業普及指導センター 8月1日付）</p> <p>（巻）7月25日現在、コシヒカリの穂色が進んだほ場が散見。葉色は指標値に比べ低く、前回調査（7月20日）に比べて低下しているほ場が多い。出穂は平年に比べ3日程度早い見込み。（巻農業普及指導センター 7月25日付）</p> <p>（三条）8月1日現在のコシヒカリは、草丈101cm（指標値比115%）、莖数377本/m<sup>2</sup>（同比99%）、葉数12.9（指標値差-0.1）、葉色33.0（同差-1.0）、葉色は、穂部葉肉厚により指標値並になっている。管内のコシヒカリの出穂期は8月2日頃（前年並）と見込める。（三条農業普及指導センター 8月1日付）</p> <p>（長岡）8月1日現在、コシヒカリの出穂期は、5月10日移穂で8月3日頃と推測され、昨年より3日程度早い見込み。移穂の早いほ場では、既に出穂が確認されている。草丈は指標値106%でやや長く、葉色（SPAD値）は指標値-0.1で並であるが、一部で葉色の淡いほ場がある。（長岡県農業普及指導センター 8月1日付）</p> <p>（上越）8月1日現在のコシヒカリの生育は、草丈は長く（指標値比116%）、莖数はやや多く（同比107%）、葉数は並（指標値差+0.1葉）、葉色（SPAD値）はやや濃い（同差+1.3）、一部で水分不足による下葉の枯れ上がりが見立つほ場が見られる。コシヒカリの出穂は昨年より3日程度早い見込み（5/10～15の田植えでは8/2頃の出穂の見込み）。こしいぶきの出穂は昨年より2～4日程度早く出穂している（5/10～15の田植えでは7/26頃）、莖数は多く、葉色は濃くなっている。（上越県農業普及指導センター 8月1日付）</p> <p>（佐渡）8月1日現在のコシヒカリの生育状況（拠点ほ場8ヶ所の平均）は、草丈は91cm（指標値比111%）、葉数は399本/m<sup>2</sup>（同比100%）、葉数は12.9枚（指標値差-0.1）、葉色（SPAD値）は31.9（同差-1.1）、穂肥が効いて葉色は前回より濃くなった。莖数は指標値におさまっている。（佐渡県農業普及指導センター 8月1日付）</p> <p>（新潟）8月1日現在の普及センター調査ほのコシヒカリは、指標値に比べ草丈は「やや長い」、莖数は「やや多」、葉色は「やや濃い」並。コシヒカリの出穂期予想は8月5日（昨年より2日早い）、こしいぶきの出穂期（盛期）は7月25日（昨年より4日早い）。（新潟県農業普及指導センター 8月2日付）</p> <p>（柏崎）8月1日現在、草丈は長く、莖数はやや多、葉色は指標値と比較して並だがほ場間差が大きくなっている。出穂期は各品種ともやや早まり、新潟次郎・純粋早生は7月13日頃、わたぼうしは7月16日頃、こしいぶきは7月24日頃に出穂した。コシヒカリは8月2～4日頃と予想される。（柏崎農業普及指導センター 8月2日付）</p> <p>（十日町）7月25日現在のコシヒカリの生育は、指標値に比べ草丈はやや長く、莖数はやや多く、葉色は並に維持されている。  <u>（十日町農業普及指導センター 7月25日付）</u></p> <p>（魚沼）出穂期は昨年より早まり、5月15日頃田植えのコシヒカリで、2～3日頃の見込み。  <u>（JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月27日付）</u></p> <p>（南魚沼）7月25日現在のコシヒカリの生育は、指標値に比べ草丈は「やや長」、莖数は「やや多」、葉色は「並」となっている。ほ場ごとの生育のバラツキが大きく、倒伏や栄養調落の懸念があるほ場が見受けられる。  <u>（南魚沼農業普及指導センター 7月25日付）</u></p> <p>（糸魚川）7月20日現在のコシヒカリ（田植え日 5月2～23日）は、指標値に比べ草丈は並、莖数はやや多く、葉数は並、葉色はやや濃い。出穂期は昨年より4日程度早い見込みだが、ほ場間差大きい。こしいぶき（田植え日 5月1日）、指標値に比べ草丈は長く、穂数は並、葉数は多く、葉色は濃い。  <u>（糸魚川地域農林振興部 7月21日付）</u></p>	<p>・8月の病害虫の発生量は、穂いもちは昨年並、紋枯病はやや多く、稲こらし病はやや少ないと予報。  <u>ニカメイテウチは少なく、セジロウカは昨年並、ツマグロヨコバイは昨年並～やや多く、斑点米カメムシ類は多く、イネアオムシはやや少く、コブノメイガとイネツトムシは昨年並と予報</u>  <u>（新潟県病害虫防除所 7月29日公表）</u></p>
富山	<p>・生育観測ほデータ（7月19日現在）  （コシヒカリ） 葉齢がやや進んでおり、草丈、莖数、葉色は、概ね昨年並みに推移している。幼穂形成期は、昨年より4日早い7月9日となった。出穂期は、昨年より4日早い、7月31日頃と見込まれる。  （てんこもり） 葉齢は昨年より進んでおり、草丈、莖数、葉色は概ね昨年並みに推移している。幼穂形成期は、昨年より1日早い7月9日となった。出穂期は、昨年より7日早い、8月1日頃と見込まれる。  <u>（富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日付）</u></p> <p>・直轄情報（7月19日現在）  ○湛水区直轄栽培（カルパー）  平年に比べ葉齢は進んでおり、草丈は長く、莖数、葉色は昨年並みとなっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈は昨年並み、莖数はやや多く推移している。幼穂形成期は、昨年より4日早い7月14日であった。出穂期は、昨年より1日早い、8月4日頃と見込まれる。  ○湛水表面直轄栽培（鉄）  近年に比べ葉齢は進んでおり、草丈は長く、莖数はやや多く、葉色は近年並みになっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈は近年並み、莖数は多く、葉色はやや淡く推移している。幼穂形成期は、昨年より2日早い7月1日であった。出穂期は、近年より2日早い、8月7日頃と見込まれる。  <u>（富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日付）</u></p>	<p>・8月のいもち病（穂いもち）の発生量は昨年並、紋枯病とこま葉枯病の発生量は多いと予報。  <u>斑点米カメムシ類の発生量は、アカヒゲトシロミドリカスミカメは多く、アカスジカスミカメとトゲシロホシカメムシは昨年並の予報。</u>  <u>ニカメイガ（第2世代）の発生量は昨年並、ツマグロヨコバイ、ヒメトビウカ、セジロウカの発生量は昨年並、トビウカとイネアオムシの発生量は少ないと予報。</u>  <u>（富山県農林水産総合技術センター 8月1日公表）</u></p> <p>・7月末から向こう1か月で、紋枯病と斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日公表）</p>
石川	<p>（7月28日調査のコシヒカリの生育状況）  ・出穂期は、加賀地域では7月22日頃から出穂が始まり、盛期は7月26日頃と平年に比べ3～4日程度早まっている。能登地域では、出穂が始まっており、盛期は7月28～29日頃と平年に比べ4～7日程度早まる見込みと予想される。  ・広がり葉数は、県平均で403枚/m<sup>2</sup>、平年比103%（加賀地域105%、能登地域98%）と並になっており、既に出穂期を迎えている圃場が多いことから、穂数は昨年並に確保される見込み。  ・草丈は、平年比106%（加賀地域106%、能登地域106%）とやや長い。  <u>（石川県農林水産部農林総合研究センター 7月28日調査）</u></p> <p>（7月19日調査の生育状況）  ・出穂期は、ゆめみづほの出穂が加賀地域、能登地域ともに見られ、近年に比べ加賀地域で4～7日程度、能登地域では8日程度早まった。能登ひかりは近年に比べ3～7日程度早まる見込み。コシヒカリの出穂期は、加賀地域で平年に比べ4～5日程度、能登地域は平年に比べ4～6日程度早まる見込み。  ・草丈は、コシヒカリで平年比107%（加賀地域107%、能登地域108%）とやや長い。ゆめみづほは、近年比111%（加賀地域110%、能登地域114%）と長い。  ・mあたり莖数は、コシヒカリで近年比98%（加賀地域100%、能登地域96%）と並、ゆめみづほで近年比105%（加賀地域105%、能登地域102%）と昨年並。  ・葉色、コシヒカリの葉色は、加賀地域、能登地域とも昨年並。  <u>（石川県農林水産部農林総合研究センター 7月19日調査）</u></p>	<p>・8月上旬～8月下旬の穂いもちの発生量は昨年並、紋枯病の発生量は昨年並と予報。  <u>斑点米カメムシ類の発生量は多く、セジロウカの発生量は昨年並、コブノメイガの発生量は昨年並、ツマグロヨコバイの発生量は昨年並と予報</u>  <u>（石川県農林総合技術センター 8月4日公表）</u></p> <p>・7月末から向こう1か月で、斑点米カメムシ類とツマグロヨコバイの発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日公表）</p>
福井	<p>・移穂のコシヒカリは7/10前後に幼穂形成期を迎えている。草丈はやや長く、莖数はやや少ない。移穂のハチエゼンに出穂期を迎えており昨年より4日程度早い。  <u>（水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月15日付）</u></p>	<p>・8月の病害虫の発生量は、穂いもちは昨年並で前年より多い、紋枯病は昨年及び前年より多い、こま葉枯病は昨年より少く、昨年並と予報。  <u>斑点米カメムシ類は昨年より多く前年よりやや少ない、ツマグロヨコバイ（第2世代）は昨年よりやや多く前年より多い、セジロウカは昨年より少く前年並み、トビウカは昨年並で前年並、イネアオムシ（第3世代）は昨年より少く前年並、コブノメイガは昨年及び前年より少ない、コバネイナゴは昨年及び前年より多いと予報。</u>  <u>（福井県農業試験場 7月28日公表）</u></p> <p>・7月中旬から向こう1か月で、紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</p>
長野	<p>・7月25日現在、豊科定点圃場（雑草5月16日種）では「あきたごまこ」7月24日、「美山錦」7月26日に出現期となった。早生種の出穂期は「平年より4日早」。「コシヒカリ」は今週から飛び穂が見られ、平坦地では8月3日前後に出現期を迎えると思われる。  <u>（松本県農業改良普及センター）</u></p>	<p>・斑点米の原因となるカメムシ類の発生が多く、斑点米が多発するおそれがある。  <u>（長野県病害虫防除所 7月19日公表）</u></p>
滋賀	<p>・7月20日現在、各品種とも生育は昨年より早い。草丈は、「コシヒカリ」では昨年よりやや長く、「秋の詩」では昨年並であった。莖数は、「コシヒカリ」では563本/m<sup>2</sup>（平年比106%）で昨年より多く、「秋の詩」では556本/m<sup>2</sup>（同比99%）で昨年並であった。葉数は、商品種ともに昨年より0.6枚多かった。「コシヒカリ」の幼穂形成期は7月2日で昨年より4日早く、出穂期は7月25日で昨年より1日早かった。「秋の詩」の幼穂形成期は7月13日で昨年より5日早かった。「みずかみ」の成熟期予想は、4月下旬～5月上旬移穂の場合は8月19日前後の見込み、5月中旬移穂の場合は8月26日前後の見込み。生育は早まっている。  <u>（滋賀県農業技術普及センター 7月26日付）</u></p>	<p>・8月の穂いもちの発生量は昨年並、紋枯病の発生量は昨年並、白葉枯病の発生量は昨年並と予報。  <u>斑点米カメムシ類の発生量は昨年並、トビウカ、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの発生量は昨年並の予報。</u>  <u>（滋賀県病害虫防除所 8月2日公表）</u></p> <p>・7月下旬以降、イネいもち病（穂いもち）の発生量が県下全域でやや多いと予報。（滋賀県病害虫防除所 7月28日付）</p>
兵庫	<p>・7月25日現在の県南部の生育は昨年並みで、莖数は昨年並、出穂は昨年並～やや早くなる見込み。県北部では、生育は昨年並で、莖数がかなり少ない。出穂はやや早くなる見込み。  7月21日現在の出穂期の予測は、県南平坦部（つづきの市市場保野）のヒノヒカリ（6月10日移穂）で8月2日、淡路平坦部（南あわじ市視察）のキヌヒカリ（6月20日移穂）で8月13日。  <u>（兵庫県農政課 7月29日付）</u></p>	<p>・向こう1か月の葉いもち、紋枯病、縞葉枯病の発生量は昨年並、ヒメトビウカの発生量は昨年並、ツマグロヨコバイ、セジロウカ、斑点米カメムシ、イネツトムシの発生量は昨年並、トビウカ、フタオビコガ、コブノメイガの発生量は昨年並と予報（兵庫県病害虫防除所 7月21日公表）</p>

生育状況等		同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
岡山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中北部（極早生・品種）の出穂期は概ね平年並みである。穂数は平年並み～やや少なめ。登熟期が高温で推移しているため、収穫期の前進が見込まれる。</li> <li>・南部（中生・晩生・品種）は6月がやや低温で推移したことから分けつが緩慢だったが、気温もよって概ね回復し、茎数は平年並。現在、幼穂形成期を迎えている。 <u>（岡山県農林水産総合センター・岡山県農業気象技術連絡会議 8月3日付）</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月の葉いもち(中生種・晩生種)、穂いもち(極早生種・早生種)、白葉病の発生量は平年並、紋枯病の発生量はやや多く、穂枯れ(中生種・晩生種)の発生量は少ないと予報。ニカメイガ、トビロウカ、イチモンジセセリの発生量は平年並。セジロウカの発生量はやや少なく、コブノメイガの発生量は少なく、カメムシ類の発生量は少ないと予報。 <u>（岡山県 8月3日公表）</u></li> <li>・7月中旬から向こう1か月で、いもち病の発生が多い予想 <u>（農林水産省 7月12日公表）</u></li> </ul>
広島		<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月下旬～8月上旬の穂いもちの発生は北部と中部でやや多く、葉いもちの発生は中部と南部で平年並の予報。セジロウカの発生は全域で平年並、斑点米カメムシ類は中北部で少ない予報。 <u>（広島県西部農業技術指導所 7月28日公表）</u></li> <li>・7月中旬から向こう1か月で、いもち病、セジロウカの発生が多い予想 <u>（農林水産省 7月12日公表）</u></li> </ul>
山口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月移植のコンヒカリ・71とめほれでは、出穂期間近～出穂期になり、過去の平均より2日程度早い生育状況。</li> <li>・6月上旬移植のまぬわすめの出穂期は8月19日頃、ヒノヒカリの出穂期は8月26日頃と予想。 <u>（JA長門大津・長門県農務所農業部 8月11日付）</u></li> </ul> <p>(生育)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月のいもち病(穂いもち)と紋枯病の発生量はやや多く、セジロウカの発生量は平年並、トビロウカとコブノメイガの発生量はやや少なく、斑点米カメムシ類の発生量は多いと予報。 <u>（山口県病害虫防除所 8月1日公表）</u></li> <li>・7月末から向こう1か月で、いもち病とセジロウカの発生が「多い」と予想 <u>（農林水産省 7月26日公表）</u></li> </ul>
愛媛	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期コンヒカリ、短期あきたこまちは登熟期となる。この時期は間断かん水が基本であるが、田面を乾かし過ぎると土質が低下するため、湿潤気味の管理に努めるよう指導。</li> <li>・普通期水稲は、幼穂形成期から出穂期を迎える。穂肥時期の予測に注意すること。また、この時期は水稲が最も水を必要とする時期であるため、流水管理を基本とし、田面を乾燥さないように注意するよう指導。 <u>（愛媛県農林水産研究所 8月2日付）</u></li> </ul> <p>(生育)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月の葉いもち(普通期栽培)の発生量はやや多く、穂いもち(早期栽培)の発生量は平年並～やや多く、紋枯病の発生量は平年並。稲こらうし類の発生量は平年並～やや多いと予報。ツマゲロコバエ、セジロウカ、トビロウカ、メイネットムシ(第2世代)、フタオビコバエ、コブノメイガの発生量は平年並。斑点米カメムシ類(短期・普通期栽培)は平年並～やや多いと予報。 <u>（愛媛県病害虫防除所 7月29日公表）</u></li> <li>・7月中旬から向こう1か月で、いもち病の発生が多い予想 <u>（農林水産省 7月12日公表）</u></li> </ul>
高知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期水稲は、作期を通じて高温で推移したため、生育は早くなっている。県中央部では、極早稲品種（ナツヒカリ、南国ぞだち）の収穫がほぼ終了し、コンヒカリの収穫が始まっている。他の地域では8月上旬より順次収穫が始まる見込み。</li> <li>・普通期水稲は、移植後の生育は概ね良好であり、県東部では平年より2、3日早く推移している。一方、県中西部の一部では日照不足により生育が遅れている地域が見られる。 <u>（高知県病害虫防除所 8月8日）</u></li> </ul> <p>(生育)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月の病害虫の発生量は、いもち病(穂いもち)は県下全域で平年並と予報。ツマゲロコバエは県中央部と県中西部で平年並、県東部と県西部でやや少ない予報。セジロウカは県東部と県西部で多く、県中央部と県中部でやや多い予報。ヒメトビロウカの発生量は県中央部と県西部で多く、県東部でやや多く、県西部でやや少ない予報。トビロウカは県下全域で少ない予報。 <u>（高知県病害虫防除所 8月3日公表）</u></li> <li>・7月末から向こう1か月で、いもち病の発生が「多い」と予想 <u>（農林水産省 7月26日公表）</u></li> </ul>
福岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月25日現在における水稲の生育は、草丈は平年並～13%高く、茎数は茎つくしで平年より5%多く、ヒノヒカリは平年並～6%少なく、元気つくしは平年並。主穂葉数は0.4～0.6葉多く、生育は進んでいる。 <u>（福岡県農業総合試験場 7月28日付）</u></li> </ul> <p>(生育)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月のいもち病(葉いもち)の発生量は平年並と予報。セジロウカ、コブノメイガの発生量は少なく、トビロウカの発生量は少ないと予報。 <u>（福岡県病害虫防除所 8月1日）</u></li> <li>・7月中旬から向こう1か月で、セジロウカの発生が多い予想 <u>（農林水産省 7月12日公表）</u></li> </ul>
熊本		<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月の早植え水稲の穂いもちの発生量は平年と比べやや少なく、トビロウカの発生量は平年並の予報。普通期水稲の葉いもちの発生量はやや少なく、トビロウカの発生量は平年並の予報。 <u>（熊本県病害虫防除所 7月29日公表）</u></li> </ul>
宮崎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期米生育状況（6月下旬） 幼穂形成期～出穂期を迎えている。平年より4日早い進捗。6月に降も平年に比べ、気温が高くなったため、生育が早く進んでいる。草丈は平年に比べて高く、茎数は平年よりやや少なくなっているが、概ね順調に生育している。 <u>（JA宮崎経済連ホームページ「平成28年度早期米生育状況」7月7日付）</u></li> <li>・早期水稲 6月15日現在の生育ステージ (県全体) 穂ばらみ期～出穂期を迎えている。平年よりも早い進捗。平均気温は平年より高く、降水量は平年より少なくなっている。草丈は平年よりやや高く、茎数や葉齢はほぼ平年並みとなっている。出穂最盛期は6月20日頃と予想されている。 (中部地区) 穂ばらみ期～出穂期。平年より4日早い進捗。草丈が平年よりやや高く、茎数や葉齢はほぼ平年並み。一部のほ場では、6月10日に収穫が確認された。出穂始期は6月19日頃、出穂最盛期は6月22日頃と予想される。 (南部河地区) 穂ばらみ期～出穂期。平年より8日早い進捗。6月に入っても高温に推移したことから生育が進んでいる。出穂始期は平年より5日早い6月12日となり、最盛期は平年より8日早い6月15日となっている。 (児湯地区) 幼穂形成期～穂ばらみ期。平年より2日早い進捗。西都町や木城町を中心とする移植が早い地域では13～15日を中心に、ほ場で出穂期に入りつつある。 (東臼杵南部地区) 減数分裂期～穂ばらみ期。平年より5日早い進捗。草丈は平年より高く、茎数は平年並みとなっている。幼穂長は管内平均が14.3cmとなっており、生育の早いところでは走り穂が見られている。 <u>（JA宮崎経済連ホームページ「宮崎県産早期米産地情報」7月7日付）</u></li> </ul> <p>(生育)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月の葉いもちの発生量はやや多く、紋枯病は平年並の予報。ツマゲロコバエ、セジロウカ、トビロウカ、ヒメトビロウカの発生量は平年並、コブノメイガの発生量は少ないと予報。 <u>（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 8月1日公表）</u></li> <li>・7月中旬から向こう1か月で、いもち病、セジロウカの発生が多い予想 <u>（農林水産省 7月12日公表）</u></li> </ul>
鹿児島		<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月の普通期水稲のいもち病(葉いもち、穂いもち)、紋枯病の発生量は平年並、トビロウカ、コブノメイガの発生量は少ないと予報。 <u>（鹿児島県病害虫防除所 7月27日公表）</u></li> <li>・7月中旬から向こう1か月で、いもち病の発生が多い予想 <u>（農林水産省 7月12日公表）</u></li> </ul>

注1：地方自治体及び出先機関並びにJA等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏めた。  
注2：生産数量目標、収穫量、状況については、農林水産省の公表資料から抜粋。

道府県	備考 気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	生産数量目標				収穫量（主食用） 27年産	作況指数 27年産
		参考		参考			
		平成28年産	前年産との比較	増減率	自主的取組参考値（深緑）		
全 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月6日～9月5日の1か月間は、気温は高い見込み。期間の前半はかなり高くなる所もある見込み。北日本と東・西日本太平洋側では、降水量は平年並か多い見込み。東・西日本日本海側では、日照時間は平年並か多い見込み。（気象庁 8月4日発表）</li> <li>（8～10月の3か月間の見通し）</li> <li>向こう3か月の気温は、全国的に高い見込み。北日本では降水量は平年並か多い見込み。8月は、北日本では、天気は数日の周期で変わり、東・西日本では、平年と同様に晴れの日が多い見込み。</li> <li>9月は、北・東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わり、西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込み。</li> <li>9月は、全国的に天気は数日の周期で変わり、北日本太平洋側と西日本では、平年と同様に晴れの日が多い見込み。（気象庁 7月25日発表）</li> </ul>	7,430,000	▲ 80,000	▲ 1.1	7,350,000	7,442,000	104
北 海 道	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道地方の8月6日～9月5日の1か月間は、気温は高く、降水量は平年並か多い見込み。日照時間は、日本海側では平年並か少なく、オホーツク海側と太平洋側ではほぼ平年並の見込み。（札幌管区気象台 8月4日発表）</li> </ul>	541,500	▲ 5,830	▲ 1.1	535,669	559,600	104
青 森	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北地方の8月6日～9月5日の1か月間は、期間の前半はかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、日本海側ではほぼ平年並、太平洋側では平年並か多い見込み。日照時間はほぼ平年並の見込み。</li> <li>東北地方では、8月9日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+2.6℃以上）（仙台管区気象台 8月4日発表）</li> </ul>	239,877	▲ 2,583	▲ 1.1	237,294	229,800	105
岩 手	同上（仙台管区気象台）	268,321	▲ 2,889	▲ 1.1	265,432	269,400	105
宮 城	同上（仙台管区気象台）	344,906	▲ 3,714	▲ 1.1	341,193	348,400	103
秋 田	同上（仙台管区気象台）	413,092	▲ 4,448	▲ 1.1	408,644	419,400	103
山 形	同上（仙台管区気象台）	340,830	▲ 3,670	▲ 1.1	337,160	354,300	103
福 島	同上（仙台管区気象台）	335,933	▲ 3,617	▲ 1.1	332,316	342,600	101
茨 城	<ul style="list-style-type: none"> <li>関東甲信地方の8月6日～9月5日の1か月間は、期間前半の気温ははかり高く、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並の見込み。</li> <li>関東甲信地方では、8月9日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.7℃以上）（気象庁 8月4日発表）</li> <li>農業用水で、東総川では20%、渡良瀬川、利根川、江戸川、神流川では10%取水制限中。（国土交通省 7月29日現在）</li> </ul>	333,776	▲ 3,594	▲ 1.1	330,182	345,400	96
栃 木	<ul style="list-style-type: none"> <li>同上（気象庁）</li> <li>同上（国土交通省 7月29日現在）</li> </ul>	295,508	▲ 3,182	▲ 1.1	292,326	287,300	98
埼 玉	<ul style="list-style-type: none"> <li>同上（気象庁）</li> <li>同上（国土交通省 7月29日現在）</li> </ul>	149,659	▲ 1,611	▲ 1.1	148,047	152,200	97
千 葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>同上（気象庁）</li> <li>同上（国土交通省 7月29日現在）</li> </ul>	243,864	▲ 2,626	▲ 1.1	241,239	297,500	101
新 潟	<ul style="list-style-type: none"> <li>北陸地方の8月6日～9月5日の1か月間は、気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。</li> <li>北陸地方では、8月9日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+2.2℃以上）（新潟地方気象台 8月4日発表）</li> </ul>	515,737	▲ 5,553	▲ 1.1	510,184	539,600	97
富 山	同上（新潟地方気象台）	183,672	▲ 1,978	▲ 1.1	181,695	191,200	103
石 川	同上（新潟地方気象台）	122,313	▲ 1,317	▲ 1.1	120,996	123,200	101

気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）		t	t	%	t	t	t
福井	同上（新潟地方気象台）						
長野	<ul style="list-style-type: none"> <li>関東甲信地方の8月6日～9月5日の1か月間は、期間前半の気温ははかかなり高く、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並の見込み。</li> <li>関東甲信地方では、8月9日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.7℃以上） （気象庁 8月4日発表）</li> </ul>	124,124	▲ 1,336	▲ 1.1	122,787	123,800	99
滋賀	<ul style="list-style-type: none"> <li>近畿地方の8月6日～9月5日の1か月間は、期間前半の気温ははかかなり高く、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。降水量は、太平洋側では多量傾向で平年並か多く、日本海側ではほぼ平年並の見込み。日照時間は、日本海側では平年並か多く、太平洋側ではほぼ平年並の見込み。</li> <li>近畿地方では、8月9日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.8℃以上） （大阪管区気象台 8月4日発表）</li> </ul>	191,933	▲ 2,067	▲ 1.1	189,867	194,500	97
兵庫	同上（大阪管区気象台）	158,741	▲ 1,709	▲ 1.1	157,032	158,500	100
岡山	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国地方の8月6日～9月5日の1か月間は、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。</li> <li>中国地方では、8月9日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.8℃以上） （広島地方気象台 8月4日発表）</li> </ul>	178,518	▲ 1,922	▲ 1.1	176,596	178,900	99
広島	同上（広島地方気象台）	156,861	▲ 1,689	▲ 1.1	155,172	149,500	96
山口	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州北部地方（山口県含む）の8月6日～9月5日の1か月間は、期間の前半は気温がかなり高くなり、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。</li> <li>九州北部地方（山口県含む）地方では、8月9日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.5℃以上） （福岡管区気象台 8月4日発表）</li> </ul>	128,585	▲ 1,385	▲ 1.1	127,201	121,700	96
愛媛	<ul style="list-style-type: none"> <li>四国地方の8月6日～9月5日の1か月間は、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並の見込み。</li> <li>四国地方では、8月9日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.5℃以上） （高松地方気象台 8月4日発表）</li> </ul>	107,601	▲ 1,159	▲ 1.1	106,443	100,700	97
高知	同上（高松地方気象台）	73,133	▲ 787	▲ 1.1	72,345	71,200	98
福岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州北部地方（山口県含む）の8月6日～9月5日の1か月間は、期間の前半は気温がかなり高くなり、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。</li> <li>九州北部地方（山口県含む）地方では、8月9日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.5℃以上） （福岡管区気象台 8月4日発表）</li> </ul>	49,537	▲ 533	▲ 1.1	49,003	52,800	96
熊本	同上（福岡管区気象台）	180,526	▲ 1,944	▲ 1.1	178,582	172,300	95
宮崎	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州南部地方の8月6日～9月5日の1か月間は、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並の見込み。</li> <li>九州南部地方では、8月9日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.1℃以上） （鹿児島地方気象台 8月4日発表）</li> </ul>	187,293	▲ 2,017	▲ 1.1	185,277	171,500	97
鹿児島	同上（鹿児島地方気象台）	92,603	▲ 997	▲ 1.1	91,606	74,700	93
		109,887	▲ 1,183	▲ 1.1	108,704	95,700	95

参考資料:

平成28年度産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)  
平成27年度水陸稲の収穫量(農林水産省)  
平成28年度病害虫発生予報第5号(農林水産省)

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道 7月21日)、農作物生育状況 7月15日現在(北海道空知総合振興局 7月21日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道石狩振興局 7月21日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道後志総合振興局 7月21日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道胆振総合振興局 7月21日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道日高振興局 7月21日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道渡島総合振興局 7月21日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道檜山振興局 7月21日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道上川総合振興局 7月21日)、農作物生育状況調査の概要 7月15日現在(北海道留萌振興局 7月21日)  
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月21日)、  
病害虫発生予察情報第10号8月予報(北海道病害虫防除所、道総研中央農業試験場予察診断グループ 7月26日)、  
7月31日現在水稲出穂状況(青森県 8月2日)、  
H28水稲作況(6月30日現在)(青森県産業技術センター農林総合研究所 7月1日)、稲作生産情報第5号(青森県 7月5日)、  
平成28年度病害虫発生予報第5号(8月予報)(青森県病害虫防除所 7月28日)、  
平成28年度水稲生育定期調査結果No.6(7月25日現在)(岩手県農業研究センター 7月27日)、農作物技術情報第5号水稲(岩手県 7月28日)、  
農作物技術情報号外高温対策(水稲)(岩手県 8月3日)、  
平成28年度農作物病害虫防除速報No.10(岩手県病害虫防除所 7月19日)、平成28年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第5号(8月予報)(岩手県病害虫防除所 7月27日)、  
平成28年度水稲の生育状況について(7月20日現在)(宮城県農林水産部 7月21日)、平成28年度発生予察情報発生予報第7号-水稲-(宮城県病害虫防除所 7月21日)、  
平成28年度産米里地区の稲作情報第6号(宮城県美里農業改良普及センター 8月4日)、栗原の稲作通信平成28年第6号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月21日)、  
仙台直播情報平成28年度版第2号(宮城県仙台農業改良普及センター 7月28日)、仙台稲作情報第3号(宮城県仙台農業改良普及センター 7月14日)、  
平成28年度大崎稲作情報第4-2号(宮城県大崎農業改良普及センター 7月21日)、おしいい米づくり情報第6号(宮城県大河原農業改良普及センター 7月20日)、  
稲作情報Vol.6(本吉農業改良普及センター 8月2日)、登米地域の稲作通信第7号(宮城県登米農業改良普及センター 7月22日付)、  
平成28年度稲作情報第2号(宮城県亶理農業改良普及センター 6月13日)、稲作情報Vol.4(本吉農業改良普及センター 7月4日)、  
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」http://www.e-komachi.jp/ 7月29日)、  
平成28年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第4号(8月予報)(秋田県病害虫防除所 7月29日)、  
米づくり技術情報NO.8(オールやまがた米づくり日本一運動本部 県産米ブランド推進課 7月28日)、当面の技術対策(8月)(山形県農林水産部農業技術環境課 7月26日)、  
稲作だより第9号(最上総合支庁農業技術普及課 7月22日)、おしいい米づくり情報第11号(区内総合支庁農業技術普及課 7月25日)、  
稲作だより第6号穂肥特集号(村山総合支庁西村山農業技術普及課 7月4日)、  
酒田・飽海日本一米づくり情報第8報・酒田飽海つや姫情報第6号(酒田農業技術普及課 7月12日)、  
稲作だより第6号(村山総合支庁産業経済部北村山農業技術普及課 7月5日)、つや姫だより第4号(村山総合支庁産業経済部北村山農業技術普及課 7月5日)、  
おしいい米づくり情報号外斑点米カラムシ類(村山総合支庁農業技術普及課 7月26日)、  
おしいい米づくり情報第7号(村山総合支庁農業技術普及課 7月5日)、つや姫通信第4号(村山総合支庁農業技術普及課 7月12日)、  
平成28年第1号おきたま つや姫だより(置賜総合支庁農業技術普及課 7月5日)、おきたま米づくり情報No.6(置賜総合支庁農業技術普及課 7月14日)、  
水稲直播情報第3号(区内総合支庁農業技術普及課 6月14日)、  
平成28年度農作物有害動物発生予察情報発生予報第5号(8月)(山形県病害虫防除所 7月27日)、  
主要な農作物の生育情報平成28年度第4号(福島県農林水産部 7月8日)、平成28年度病害虫発生予察情報発生予報第4号(7月)(福島県病害虫防除所 7月22日)、  
平成28年度病害虫発生予察情報注意報第4号(福島県病害虫防除所 7月22日)、  
農研速報(水稲の生育状況)(7月29日現在、水戸市)(茨城県農業総合センター 8月3日)、農研速報(水稲の生育状況)(7月19日現在、龍ヶ崎市)(茨城県農業総合センター 7月22日)、  
病害虫速報No.2(茨城県病害虫防除所 8月1日)、病害虫発生予報8月号(茨城県病害虫防除所 7月29日)、  
平成28年度水稲生育診断予測事業速報No.5(栃木県農林水産部 7月25日)、平成28年度病害虫発生予報第4号(栃木県農業環境指導センター 7月22日)、  
河内管内水稲技術情報7月号(栃木県河内農業振興事務所)、水稲管理情報Vo.2(栃木県農林水産部振興事務所)  
平成28年度水稲の生育概況vol.2(埼玉県農業技術研究センター 7月7日)、平成28年度病害虫発生予報第4号(8月予報)(埼玉県病害虫防除所 7月29日)、  
水稲の生育状況と当面の対策第6報(千葉県農林水産部 7月29日)、  
平成28年度病害虫発生情報第1号(千葉県農林総合研究センター 6月9日)、平成28年度病害虫発生予報第4号(千葉県病害虫防除所 7月7日)、  
平成28年度病害虫発生予察注意報第1号(千葉県農林総合研究センター 7月1日)、  
水稲の生育状況と今後の管理対策(第8号)(新潟県農林水産部 8月2日)、  
岩船米生育速報(8月1日現在)(村上農業普及指導センター)、新発田地域水稲生育速報No.8(新発田農業普及指導センター 8月1日)、  
新潟稲作速報No.8(新潟農業普及指導センター 8月1日)、水稲生育速報(巻農業普及指導センター 7月25日)、  
FAX稲作速報No.12(三条農業普及指導センター 8月1日)、水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 8月1日)、  
7/25稲作生育速報(十日町地域)(十日町農業普及指導センター・十日町地域農業振興協議会魚沼米振興部会 7月25日)  
平成28年上越地域水稲生育速報(8月1日)(上越農業普及指導センター 8月1日)、稲作生育速報No.8(佐渡農業普及指導センター 8月1日)、  
水稲生育速報No.7(新津農業普及指導センター 8月2日)、稲作情報No.6(南魚沼農業普及指導センター 7月25日)、  
稲作管理情報7(稲崎農業普及指導センター 8月2日)、平成28年度糸魚川売れる米づくり水稲生育情報NO.6(糸魚川地域農林振興部 7月21日)、  
緊急稲作情報1(A北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月27日付)、  
平成28年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第6号(8月の発生予想)(新潟県病害虫防除所 7月29日)、  
TACS情報第8号(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日)、直播情報(第6号)(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日)、  
病害虫発生予報第5号(富山県農林水産総合技術センター 8月1日)、  
平成28年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-9号)(石川県農林総合研究センター 7月28日)、  
平成28年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-8号)(石川県農林総合研究センター 7月19日)、  
病害虫発生予報第5号(石川県農林総合研究センター 8月4日)、  
稲作情報No.11(福井県 水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月15日)、平成28年度農作物病害虫発生予察予報第5号(福井県農業試験場 6月30日)、  
平成28年度農作物病害虫発生予察注意報第1号(福井県農業試験場 6月28日)、  
平成28年度農作物技術普及情報第12号(松本農業改良普及センター)、  
稲作フロンティアアドバイス(No1)(JA長門大津、長門農林事務所農業部 6月11日)、  
病害虫発生予報注意報第3号(長野県病害虫防除所 7月19日)、  
平成28年度水稲生育診断情報No.4(滋賀県農業技術振興センター 7月26日)、平成28年度病害虫発生予報第8号(滋賀県病害虫防除所 8月2日)、  
病害虫発生予察注意報第4号(滋賀県病害虫防除所 7月28日)、病害虫発生予察注意報第3号(滋賀県病害虫防除所 7月14日)、  
平成28年度兵庫県農業気象技術情報第4号(8月情報)(兵庫県農政環境部 7月29日)、平成28年度病害虫発生予察予報第3号(兵庫県病害虫防除所 7月21日)、  
広島県病害虫発生予察情報予報第5号(水稲)(広島県西部農業技術指導センター 7月28日)、  
平成28年度病害虫発生予報第5号(岡山県病害虫防除所 8月3日)、水稲における当面の技術対策について(岡山県農林水産総合センター・岡山県農業気象技術連絡会議 8月3日)、  
稲作フロンティアアドバイス(No6)(JA長門大津、長門農林事務所農業部 8月1日)、農作物病害虫発生予報8月号(山口県病害虫防除所 8月1日)、  
気象情報に基づく技術対策、作物(愛媛県農林水産研究所 8月2日)、病害虫発生予報(8月)(愛媛県病害虫防除所 7月29日)、  
平成28年度病害虫発生予報7月号・平成28年度病害虫発生予報第5号(8月)(高知県病害虫防除所 8月3日)、  
平成28年度病害虫発生予報第5号(8月)(福岡県病害虫防除所 8月1日)、福岡県米麦大豆生育情報(福岡県農林業総合試験場 7月27日)、  
福岡県米麦大豆生育情報(福岡県農林業総合試験場 7月28日)、平成28年度病害虫発生予報第5号(8月予報)(熊本県病害虫防除所 7月29日)、  
平成28年度産宮崎産早期米産地情報(平成28年6月15日現在)・平成28年度産早期米生育状況(宮崎経済連ホームページhttp://www.miyazaki-cha.jp/kome/index.html 7月7日)、  
平成28年度病害虫発生予報第4号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 8月1日)、平成28年度病害虫発生予報5号(8月)(鹿児島県病害虫防除所 7月27日)、

北海道地方向こう1か月の天候の見通し(札幌管区气象台)、東北地方向こう1か月の天候の見通し(仙台管区气象台)、関東甲信地方向こう1か月の天候の見通し(気象庁)、  
北陸地方向こう1か月の天候の見通し(新潟地方气象台)、近畿地方向こう1か月の天候の見通し(大阪管区气象台)、中国地方向こう1か月の天候の見通し(広島地方气象台)、  
四国地方向こう1か月の天候の見通し(高松地方气象台)、九州北部地方向こう1か月の天候の見通し(福岡管区气象台)、九州南部・奄美地方向こう1か月の天候の見通し(鹿児島地方気  
高温に関する異常天候早期警戒情報(気象庁 8月4日)、エルニーニョ監視速報(No.285)(気象庁地球環境・海洋部 6月10日)  
平成28年度渇水状況について(7月29日0時現在)(国土交通省 平成28年 7月29日)